

隠岐島前病院における外来看護師の取り組み～よりよい地域医療看護をめざして～  
三角 琴江、佐藤優子、松浦幸子、白石裕子、白石吉彦

【目的】外来看護師は患者の救急受診時や外来受診など様々な場面において、スムーズな対応が望まれる。しかし、日々の業務におわれ患者の満足する看護が提供出来ていない現状があった。よりよい看護を目指し、月曜から金曜まで毎日夕方に外来スタッフ会を始め一年が経過した。今までを振り返り、成果および問題点を検討した。

【方法】

- 1) 外来スタッフ会の参加者にアンケート調査を行った。
- 2) 成果や課題を抽出、評価、検討した。

【結果】

- 1) 患者の様々な情報および問題をスタッフ間で共有することで仲間意識が深まり、統一した看護を行い、患者との信頼関係を築いていくことが出来た。
- 2) 他職種を交えて違った視点からの情報、アドバイス、協力が得られた。
- 3) 誰もが参加しやすくなると他職種との情報共有も深まり、さらにチーム力の向上につながった。
- 4) 業務改善が図れた。

【結論】目標は15分以内の会を目指しているが、実際は平均30分かかっている。しかし、外来スタッフ会を継続することで、情報共有でき問題意識をもった関わりが出来た。結果として患者に寄り添う看護の実践に繋がった。今後さらに満足される、より充実した看護を提供するために、他職種との連携を深め、多方面からの協力体制を図っていく必要がある。院内全体のチーム力向上が患者との信頼関係に繋がり、継続した寄り添う看護で安心した在宅生活を送れることとなる。また、業務改善が図れたことは、働きやすい職場へと繋がった。